



九州大学  
KYUSHU UNIVERSITY

上野凱旋門 明治 38 年

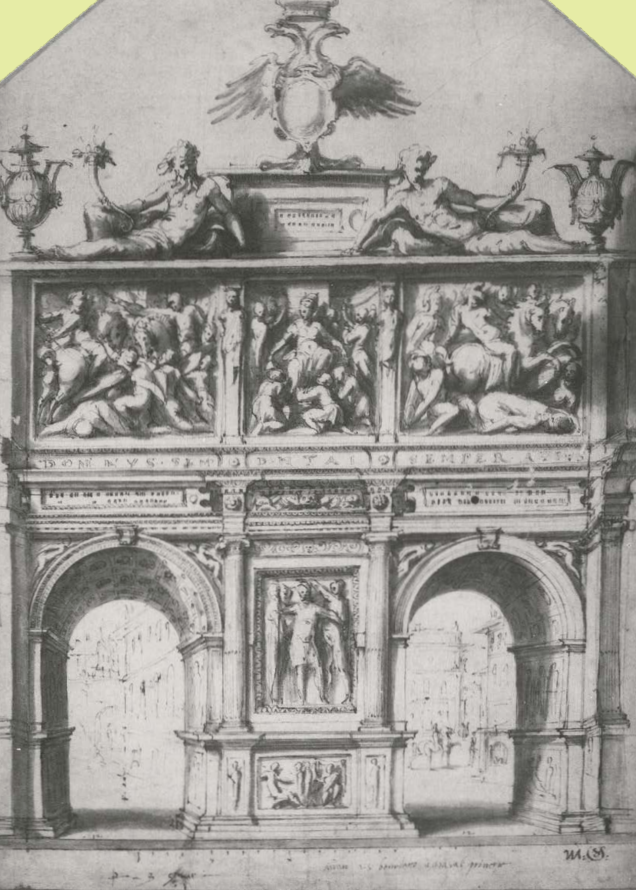


桑卯園遊会の活人画「秋色女」明治36年

人文科学研究院／人間環境学研究院／法学研究院／経済学研究院  
九州大学人系協働研究・教育コモンズ 第二弾企画

# 仮設の文化

## について考える



カール5世のジェノヴァ入市式の仮設凱旋門 1529年

### 現れ消える束の間のスペクタクル

先般、第40回サントリー学芸賞を受賞された京谷啓徳先生の著作『凱旋門と活人画の風俗史』から、凱旋門をめぐる話題を中心にとりあげていただき、その儂くも人々を魅了してやまないスペクタクルの魔力について、縦横無尽に語っていただきます。

ルネサンスの時代、王侯貴族の祝祭・儀礼を彩った大道具のひとつに、ハリボテの凱旋門があります。忽然と出現し、祝祭が終われば直ちに解体されてしまう仮設凱旋門の伝統は、近代市民社会にも受け継がれ、ひいては明治以降の我が国に移入されるにいたりました。本講演では、仮設建築物や仮設装飾が持つ魅力、見る者の心を掴み取る力、そしてその力を利用するイデオロギーや政治性といったものについて考えてみます。またそれらの仮設物がどのように記録されたのか、その記録がどのように利用されたのかについても検討します。

また、ディスカッションの先生方との議論も通じ、仮設の文化全般について射程を広げその意味や機能について考えていきます。

掲載図版は『凱旋門と活人画の風俗史 儂きスペクタクルの力』（講談社選書メチエ）より引用

京谷 啓徳 きょうたに・よしのり  
九州大学大学院 人文科学研究院准教授



1969年、香港生まれ。東京大学大学院人文社会科学系研究科博士課程終了。博士（文学）。東京大学助手を経て、現職。西洋美術史および近代芸能史を研究している。主な著書にサントリー学芸賞を受賞した『凱旋門と活人画の風俗史 儂きスペクタクルの力』（講談社選書メチエ）、『もっと知りたいポッティチェリ』（東京美術）、『ボルソ・デステとスキファノイア壁画』（中央公論美術出版）、『西洋美術の歴史4 ルネサンスI』（共著、中央公論社）、『浅草オペラ 舞台芸術と娯楽の近代』（共著、森話社）、『ステージ・ショウの時代』（共著、森話社）など。

ディスカッション

小笠原 弘幸

九州大学大学院 人文科学研究院

堀 賀貴

九州大学大学院 人間環境学研究院

赤坂 幸一

九州大学大学院 法学研究院

小津 稚加子

九州大学大学院 経済学研究院

2019年3月15日 [金] 14:30-17:30

参加申込不要 当日会場までお越しください。

【会場】九州大学伊都キャンパス イースト 2号館 1階 D105 講義室

交通アクセス

JR筑肥線「九大学研都市駅」下車（福岡市営地下鉄空港線からJR筑肥線への直通列車あり）  
昭和バス九州大学線（①、②または④の乗り場）に乗りし、「九大イーストゾーン」下車

【お問い合わせ】九州大学人系協働研究・教育コモンズ Email: collaborative.platform@cmns.kyushu-u.ac.jp